

飛沫対策シールドを活用した診療例



東京都中央区ご開業の津川順一先生（つがわ歯科・矯正歯科）は、院内感染を防ぐために、自作の飛沫対策シールドを活用した診療を行っています。

今回特別に、実際に製作された飛沫対策シールド作り方を教えていただきました。

ご診療の流れ

1. 患者さまをチェアにご案内し、安心して受診いただけるよう、飛沫対策シールドをご説明。
2. チェアを倒してから、患者さまの頭部と口腔外バキュームをシールドで覆います。
3. 透明なシールド越しに、診療を行います。デジタルマイクロスコープを活用し、4K高画質のモニターと直視を併用して、治療・確認します。
4. 治療が終わったらシールドを外し、チェアを起こしてうがいをさせていただきます。



飛沫対策シールドについてのQ&A

Q.1 シールドを製作された経緯を教えてください。

→新型コロナウイルスの感染が拡大していく中で、患者さまはもちろんですが、医院スタッフ全員を守りたいと強く思いました。副院長の考案で、製作を始めました。

Q.2 どのように製作されたのでしょうか？

→ホームセンターで揃う材料（スチールラック、アクリル板、ビニールシートなど）で作りました。1セット1万5000円くらいです。次ページに材料などを紹介します。

Q.3 シールドは何セット製作されましたか？

→2種類つくりました。診療の際、補助者がいる時用・いない時用で、使い分けています。補助者がいない時は、診療ポジションを変えたり立位になるケースが多いので、ラックを少し高く、幅も広めにつくりました。

Q.4 スタッフの反応は？

→当院の取り組みを、他の医院で働く同期と情報共有しているそうです。「すごいと言われました！」と報告もしてくれます。このような状況でも、毎日医院と患者さまのために従事してくれて感謝しています。

飛沫対策シールドの製作例

※材料の寸法は、チェアの位置や術者の体型に合わせて、各医院様で調整ください。

診療補助者あり



スチールラック材料 ※サイズは目安です。

- ①ポール(長) 106.5cm (60+46.5) 2本 延長パーツ
- ②ポール(短) 76cm (60+16) 2本 延長パーツ
- ③ワイヤーバー(長) 54.5cm 3本
- ④ワイヤーバー(短) 39.5cm 4本
- ⑤キャスター 4個

その他材料

- ⑥アクリル板(厚み 5mm) 60cm×30cm
アクリルはあらかじめカットしてもらい、縁はビニールテープなどで保護する。
- ⑦ビニールシート
- ⑧スポンジ(患者さまの頭保護用)
- ⑨クリップ(ビニールシート固定)

診療補助者なし 立位可



スチールラック材料 ※サイズは目安です。

- ①ポール(長) 120cm 2本
- ②ポール(短) 90cm or 106.5cm 2本
- ③ワイヤーバー(長) 69.5cm 3本
- ④ワイヤーバー(短) 29.5cm 4本
- ⑤キャスター 4個

その他材料

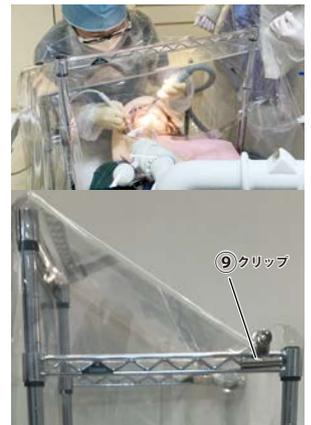
- ⑥アクリル板(厚み 5mm) 75cm×30cm
アクリルはあらかじめカットしてもらい、縁はビニールテープなどで保護する。
- ⑦ビニールシート
- ⑧スポンジ(患者さまの頭保護用)
- ⑨クリップ(ビニールシート固定)



各部材の取り付けや、高さ確認の様子

組み立て手順 ※ワイヤーバーの位置は、医院様の環境にあわせて取り付け位置を調整してください。

1. スチールラックのフレームを組み立てます。
ワイヤーバーは術者の顔の高さ、手を入れるスペース、ユニットチェアを倒した時に、患者さまに干渉しない高さにします。
2. アクリル板の角度を調整します。(45度程度)
右写真のように、アクリル板の角度をつけることで、パキュームやインスツルメントが自由に動かせるようになります。
3. ビニールシートをアクリルの上から被せてクリップで固定します。
9時から12時のポジションでも、横のビニールシートを短めにすることで、使用しやすくなります。ビニールシートとバーを抑えるクリップの位置を調整すると、アクリル板の角度も調整できます。



そのほかの感染防止の 取り組み例

アポイントの調整

待合室では3人以下になるように、予約を調整しています。

換気の徹底

常時、換気しています。
ドアノブに触れないように工夫しています。

入口の下足の消毒



入り口には、消毒液の染み込ませたマットを設置し、くつの裏を拭いてからの入室をお願いしています。

受付の感染対策



受付では突っ張り棒に、ビニールの幕を張り、対面での飛沫感染を予防しています。

問診票・検温の実施



患者さまには手洗い、検温の実施や、コロナ対策用の問診表記載の協力をお願いしています。

防護服、ゴーグルの着用



スタッフの安全を守るため、防護服、ゴーグルの着用をしています。防護服袖口の上からグローブをして、隙間を作らないようにしています。



ご協力

津川 順一 先生
つがわ歯科・矯正歯科（東京都開業）
<https://www.tsugawa-dc.com>

※ご紹介した、シールドの製作や飛沫防止の取り組みにつきましては、各医院様でご判断いただけますようお願いいたします。